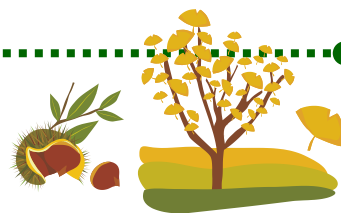


第10期第2回 概要報告



7月24日に、第2回生涯学習推進委員会議が開催されました。今回は、「(仮称)生涯学習大学の創設に向けて」協議を行うにあたり、まずは他自治体の生涯学習大学の事例や現在区内で行っている講座について学び、委員全員で情報共有を行いました。

その後、千代田区版の生涯学習大学を作るにはどうすれば良いか、委員一人ずつ質問や意見を述べ、今後の課題を再確認しました。これから具体的な検討を行っていくための、第一歩となったのではないのでしょうか。

以下、概要をお伝えいたします。



事例：藤沢市の生涯学習大学について



I. ふじさわ市民講師養成コース



市民講師として活躍するための必要なスキルを身につけるコース。生涯学習人材バンク「湘南ふじさわ学びネット」へ登録し、知識・技術・活動についてのさまざまなノウハウを学ぶ。

ここで学んだ受講者は、いずれは市民講師として教える立場となることが期待されている。

II. 地域デビューコース

地域の「ボランティア」を切り口としたコース。市民活動やボランティアに参加したいが方法が分からない、どういった活動があるのか知らないという市民に向け、ボランティア団体の紹介や、ボランティアに参加するにあたって必要な心構えなどを教える。

受講カリキュラムでは、実際にボランティア団体の活動に参加し、ボランティア体験をすることができる。

III. ふじさわ基礎学コース

平成26年度から開始された、藤沢市について学ぶ基礎的なコース。郷土愛を育み、学びの成果を地域還元へつなげることを目的としている。

第1回となる平成26年度はエコライフに着目し、藤沢市の特徴的な環境温暖化対策・省エネ活動について学ぶことができる。



IV. 生涯学習大学通信コース

豊かなライフスタイルづくりを支援する一環として、FM放送またはインターネットを使用し、自宅にいながら学習ができるコース。

平成25年度は「地域開発から見る近現代の湘南・藤沢」「健康長寿を目指して湘南に楽しく住む～食品、薬およびサプリメントの上手な活用」など、さまざまなテーマで講座を展開した。



② 地域との連携



生涯学習大学の講師を務めるのは、市の教育委員会関係者や職員をはじめとして、NPO団体、大学教授など多岐にわたる。

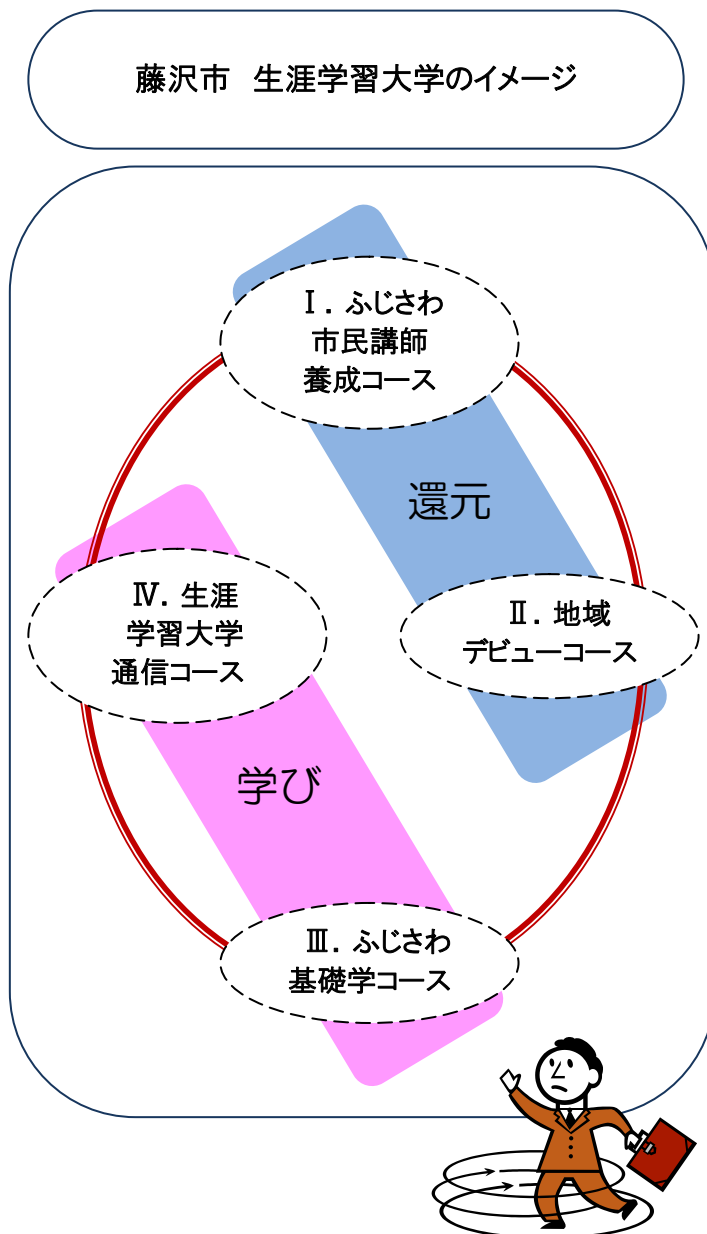
地域の方のみならず、市内にある学校との連携も図りながら、地域全体で生涯学習大学の学びの場を作り出している。

③ 学びと還元

I. ふじさわ市民講師養成コース と II. 地域デビューコースは、市民の方々が自発的に参加・活動していく学習コースであり、住んでいる地域に自らの知識やノウハウを還元していくことを目的とした切り口となっている。

一方、III. ふじさわ基礎学コース と IV. 生涯学習大学通信コースは、「まずは藤沢市について学ぶ」ということを目的とし、地域活動に参加するための地盤づくりを手助けする形となっている。

この「学び」と「地域への還元」をバランスよく配置し、「学んだことを実際に体験して地域へ還す」ところまでを含め、コース立てがされている。



質問・自由意見

- これまでの意見書・報告書にも、学ぶことに魅力を感じる面を大切にしたいとあった。在勤者も学ぶ意欲を高められるよう配慮し、結果として還元ができるようにシフトができればいい。
- はじめからボランティア・地域還元ありきで学ぶのではなく、これまで学習の場に参加できなかった人が参加しやすいようにしていきたい。
- ふじさわ基礎学コースについて、「郷土愛を育んで、その学びの成果を地域還元へつなげる」という表現があるが、この目的を達成するために具体的にどのような段取りを踏んでいるのか。
⇒ ふじさわ基礎学コースで学んだ方々が特定のテーマに興味を持ち、次のステップへ進んでいく。たとえば、教える側の講師として活躍したい・知識を市民へ還元したいという方は市民講師養成コースへ、学んだことをすぐに活動の中で活かしたい方は、関連したボランティア活動や市民活動を行うために地域デビューコースへ、それぞれのニーズにしたがって分かれていく形になる。

- 藤沢市は千代田区より住民が多く、講座の参加者もシニア世代が多い。千代田区版の生涯学習大学を創設するにあたっては、在勤者が多いという特徴についても考慮し、ターゲットに合わせた時間帯やコース設定が必要になる。

- ふじさわ基礎学コースの「ストップ地球温暖化！」などは、環境総務課連携事業とある。このように既存の学習事業の活用をした場合、新たな予算増はあまり伴わないため、千代田区でも参考になるだろう。

(仮称)生涯学習大学の創設に向けて

千代田区らしい独特な(仮称)生涯学習大学の創設へ向けて、既存の生涯学習事業について、情報共有を行った。



を作り広げていくため、地域のコミュニティペーパーを作ってはどうかという形になり、講座が進んでくこととなった。

平成 24 年度は、九段生涯学習館発行のコミュニティペーパー「DanDan Vol.3」を想定して、具体的な企画・制作を行った。

平成 25 年度は、前年度行った企画・制作の経験を活かし、「区民自主企画講座」「人材バンク活用講座」への応募を目標に、いくつかのグループに分かれて講座を企画した。

①「九段生涯学習館 生涯学習コーディネーター養成講座」展開のきっかけ

第 7 期生涯学習推進委員会議において、生涯学習コーディネーター設置の必要性について提言がなされた。それを受けて、平成 21 年度より九段生涯学習館にて教養講座の枠を活用し、「生涯学習コーディネーター養成講座入門編」として基礎的知識の提供に主眼を置いて実施された。

以降、各年度 1 シリーズの講座を実施し、平成 24 年度からは入門講座受講者の発展の場として、新たな講座を提供している。

② コーディネーター養成講座入門編

平成 21 年度から 23 年度までの 3 年間で開催された。定員 15 名、年 3～7 回の講座回数で、生涯学習コーディネーターの活動イメージの具体化や、実際にコーディネーターとして活躍するために必要な知識を身に着けることを目的とし、千代田区における「生涯学習コーディネーター像」について考えるカリキュラムが組まれた。

③ コーディネーターとしての活動

平成 23 年度までの講座の中で、受講者から「コーディネーターを養成するための定番の講座を受講してみたい」「受講者同士で関わり合いを持ちながら、ものづくりをしてはどうか」などの意見が出る。もっと地域の方々に生涯学習活動を知っていただくきっかけ

- 生涯学習コーディネーター養成講座が社会還元を行うためのきっかけとして働けばいい。

- (仮称)生涯学習大学のカリキュラムを組む場合は、生涯学習コーディネーター養成講座を必修というような形にして、その他選択制の科目はこれから検討していく必要がある。

- コーディネーター自身がいろいろな学びを体験することは大事になってくる。

- 千代田区の場合、文化スポーツ課は区長部局の所管にあるため、生涯学習大学創設のような多岐にわたる場合は、特に全庁的な連携がとりやすいといえる。

- 第9期の意見書の提言でも言われていたように、学ぶ→体験する→継続するという、まずは入門し、活動を発展させ、活動につなげていくという一連の仕組みが必要になる。学習ボランティアや、コーディネーターを充実させて人材を育成していく視点が大切である。

質問・自由意見

リレー随筆 No.2

「故きを温ね新しきを知る」

岩寄 達弥

私は、千代田区在住ではありませんが、千代田区専修学校各種学校協会(千専各)から推薦され、今回千代田区生涯学習推進委員として二年間参加をさせていただきます。

生涯学習と言っても、右も左も分からず、さて何をやったらいいのか？どの様な意見を言ったらいいのかわかりません。

私が加盟している千専各では、毎年一回、秋のころに千専各ウォーキング大会というものを開催しています。参加者は千専各に加盟している専門学校の学生や教員またその家族で、毎年100名近い方が参加されます。まず皇居桜田門に集合したのち、桜田門から国会議事堂をめぐり、国立劇場、半蔵門、近代工芸館と、秋の千鳥ヶ淵や皇居のお濠を散策し、北の丸公園では銀杏など紅葉した木々に囲まれて昼食をとり、北桔橋門から皇居東御苑や江戸城本丸跡、資料館等を見て大手門まで周るルートや秋の日比谷公園散策から大手町を周るルートなど毎年色々な千代田区を楽しめます。史跡など古い歴史ある千代田区と、秋葉原や大手町など新しい街が融合する千代田区を生涯学習の一つとして勉強出来たらいいなと感じています。

千代田区で働いていても、なかなか文化、歴史を探索する機会がありません。区民の方はもちろん、在勤、在学の方も生涯学習を通して千代田区という街を知り、関心を持ってもらうことが生涯学習推進委員としての役割かなと思います。



～編集後記(事務局より)～

第10期第2回のエポックは、「(仮称)生涯学習大学の創設」へ向けて、他自治体の事例・既存の生涯学習事業の紹介と、千代田区版の生涯学習大学を作るにはどうすれば良いか、委員からの質問と自由意見を中心に掲載いたしました。

また、お忙しい中リレー随筆をお引き受けいただきました岩寄委員に、心から御礼申し上げます。

次号エポックも、よろしくお願いいたします。

【編集／発行】

千代田区 区民生活部 文化スポーツ課
〒102-8688 千代田区九段南 1-2-1

TEL 03(5211)3632
FAX 03(3264)3988
E-mail bunkasupotsu@city.chiyoda.lg.jp

